

第20回

環境 コミュニケーション 大賞

「環境活動レポート部門」 作品募集

環境省策定の中堅・中小事業者向け環境マネジメント・システム「エコアクション21」に基づき作成・公表される環境活動レポートを募集します！！

今年度の
特長

- ・優良賞の表彰枠拡大
- ・第20回を記念して受賞ロゴマークを制定

エントリー開始

エントリー締切

10月4日(火)

11月8日(火) ※当日消印有効

奮って
応募
ください！

第19回
大賞受賞

大栄環境グループ 株式会社GE

雑誌感覚のレポート誕生により、社内外でコミュニケーション活性化

大事にしている全員参加の環境教育

当社は、循環型社会の構築を先導する企業となることをビジョンに掲げ、2004年に創業した若い会社ですが、安心・安全なリサイクル技術で地域の皆様やお客様に愛される企業NO1を目指し、日々努力しています。環境活動のなかでも、社員への環境教育を重視しています。当社のような業種では安全配慮は当然ですが、そこに全社員一人ひとりに環境配慮の意識が浸透することにより、社内が活性化し、何より自分の働く会社を誇りに思えるようになったことを嬉しく思います。ここに魅力を感じて入社する社員もいるくらいです。

若手の発案で応募。

受賞を励みに環境活動に拍車かかる

環境コミュニケーション大賞へは、エコアクション21のマンネリ化を打破するため、ある若手社員の発案で、再活性化プロジェクトが始動し、その一環で応募し始めました。若い社員から「雑誌を読むような感覚のレポート」作成が提案され、今の形になっています。最近はお客様に会社内とセットでお配りし、好評をいただいています。

大賞受賞により、私たちの環境取組が世間から高く評価されたことは、全社員に大きな自信と誇りとなりました。現場に笑顔が増えましたし、さらなる熱意をもって環境と安全活動に励んでいます。また、見学にお越しになるお客様との明るい話題作りにも役立っています。



第19回環境コミュニケーション大賞 環境レポート部門大賞受賞
株式会社GE 環境活動レポート2015年度版（2015年5月発行）

評価のポイント

図や表、グラフ、写真をバランスよく活用し、読み手に理解してもらえよう工夫した活動レポート

エコアクション21環境ラリーなど、全員参加型の活動となるよう意識した取組事例を多く掲載

環境に優しい堺市！ もっと堺市のことを知ってほしいと思い、環境活動レポートでも素敵な名所を紹介しています。見てくださいね



堺市のちんちん電車

企業概要

設立：平成15年
所在地：大阪府堺市
従業員数：64名
業態：産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬・積替保管及び中間処理



主催 環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム

協賛 一般社団法人サステナビリティ情報審査協会

協力 一般財団法人持続性推進機構、日本公認会計士協会

後援 株式会社東洋経済新報社、一般社団法人日本経済団体連合会、日本商工会議所、株式会社日本取引所グループ

募集の詳細は裏面をご覧ください

平成28年度環境コミュニケーション大賞運営方針

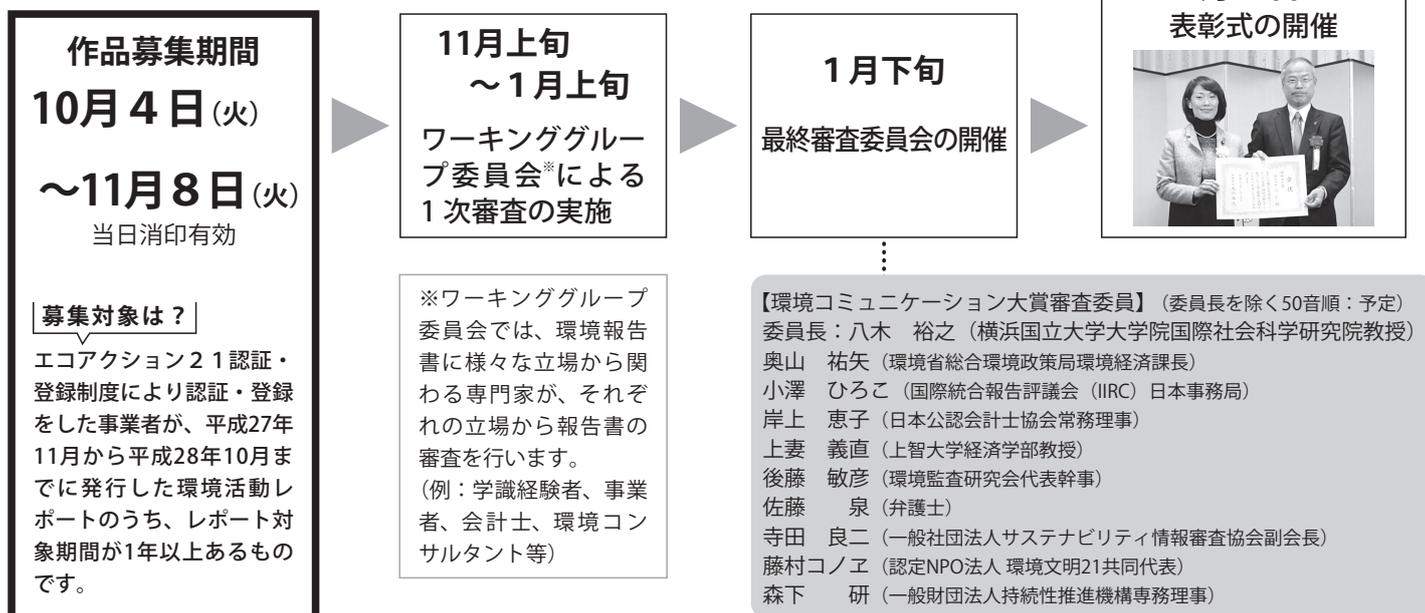
環境問題が大規模かつ複雑になっている現在、中小企業においても環境経営に取り組むことの意義はより重要視されています。例えば大企業は、中小企業を含むバリューチェーン全体で環境や社会への取組を注視し始めており、昨年改定された国際的環境マネジメント・システムもバリューチェーン重視へと舵を切りました。

更に、昨年 COP21 で合意されたパリ協定では、全ての経済活動に低炭素の要素を組み込むことが定められ、この動きは早くも大企業から川上・川下へと波及しつつあります。

こうした状況の中で、自ら環境等に取り組み、積極的に情報発信を行うことは、事業機会獲得の絶好のチャンスです。その有効な手段がエコアクション21であり、その活動をステークホルダーに理解してもらうツールこそが「環境活動レポート」です。

今年度の環境コミュニケーション大賞では、第20回を記念して受賞ロゴを策定するとともに、近年の募集増や優良な作品が増えたことを受け、優良賞の受賞枠を拡大することで、中小企業の環境コミュニケーションの活性化に寄与します。

第20回環境コミュニケーション大賞のスケジュール



募集の詳細はこちらをご覧ください → <http://www.gef.or.jp/>

第20回環境コミュニケーション大賞 審査委員長 エコアクション21ガイドライン改訂作業部会座長 八木裕之氏からのメッセージ



八木裕之氏

本表彰制度は、今回で20回目という節目を迎えることができました。また、エコアクション21(EA21)は認証登録制度を開始して昨年で10周年という節目を迎え、新たな10年先を見据え、同ガイドラインの改訂作業を鋭意進めているところです。

今後の環境活動は、目指したいビジョン、中長期のゴール、本業への融合、取引先・従業員並びに地域社会との協働が一層求められます。そして経営者は自らの言葉で、様々な関係者に向けてこうした情報を発信すること、“対話力”も必須となるでしょう。

昨年9月にSDGsが採択され、同じく12月にはパリ協定が採択されました。今年に入り、環境と経済の距離は一層縮まり、我が国ではESG投資の幕開けともいわれています。こうした大きなうねりの中で、EA21に取組み適切に情報を発信することは、多くの方から評価される絶好の好機といえるでしょう。

環境活動レポートはますます重要なコミュニケーションツールとなります。多くの学びや気づきが得られるだけでなく、自らの対話力のチェックの場としても活用できる本制度に、ぜひ御応募ください。

●本事業について

環境省総合環境政策局環境経済課
課長補佐：齋藤 担当：藤原、二見
電話：03-5521-8229

●お申込等に関するお問合せ(事務局)

株式会社ダイナックス都市環境研究所
担当：北本、江澤、谷口、佐久間
〒105-0003 東京都港区西新橋2-11-5TKK 西新橋ビル3F
電話：03-3580-8221 メール：eco-com20@dynax-eco.com